太洋にまぐろ追う

沿岸漁業の不振が叫ばれる時、県の試験指導船「肥後丸」にかけられる期待は大きい。

南洋に北洋に、怒濤をけつて魚群を追う海の男たち、そのたくましい斗魂をいろどる哀歓の生活は、久しく私たちの知らんとしたところ、こゝに真夏の読物として贈る座談会…………

—出航—

二カ月のよごれ

山口　面白いお話は後で伺うとして、先ず肥後丸の性格を場長さんから。

加藤　肥後丸は本県の遠洋漁業試験指導船ということになつているのでして、つまりまぐろ漁業の綜合的な調査によつて、今後の漁業開発のデータにするという国家的な立場と、本県の沿岸漁業の不振を打開するモデルケースとしての立場と、この二つの目的があるわけです。

山口　肥後丸の大きさは？

加藤　長さ二三米、巾五米深さ二・五米七七屯の木造船で、昭和二十三年の建造、二二〇馬力のディーゼルエンジンを動力としています。

"海の男たち大いに語る

——天草郡苓北町富岡で——

（語る人）

肥後丸機関長	揚野保彦氏
熊本県水産試験場漁撈主任	山本和平氏
熊本県水産試験場長	加藤五郎氏
司会　広報渉外課嘱託	山口白陽
肥後丸漁撈長	竹村早茂氏
仝　船長	花田貞男氏
仝　無電局長	岡野清美氏

—写真左から—

山口　では船員の構成や出発の準備などについてどうぞ。

山本　漁撈の中心になる漁撈長、船の責任者である船長、船を動かす機関長、通信に当る無電局長、炊事を預かる司厨長、水夫の頭である甲板長、などをはじめ総勢二十一・二名というところです。

花田　準備としては、燃料の重油、魚を保存する氷、延縄その他の漁具、餌に使う冷凍サンマ、食糧が三十五日分に十日分ほど余裕をつけ、それに飲料水を約五屯ほど用意します。

山口　海水は使えませんか。

花田　ロカ設備がないので、真水をとても大切に使います。

揚野　炊事と飲水だけに使つて水口にはカギがかけてあります。顔も洗わず湯にも入らず、三四十日ヒゲはのび放題、アカもつき放題。（笑）

加藤　日にはやけ放題（笑）いよ〳〵黒くなるばかりだね。（笑）

山本　スコール（にわか雨）は駄目かな。

花田　スコールはあツという間に過ぎるので大して役立たないですよ。

息もつけぬ台風

山口　ではいよ〳〵出航といきますか。

花田　四月の廿五日に四国の室戸港を出て、一路南下しましたが、途中ガム島の西一二〇マイルあたりで台風にあつたので、船足がおくれて、五月の六日にやつと目的地のトラック島附近まで来ました。こゝを中心に東西カロリン群島の周辺一帯が漁場なのです。

山口　台風はひどいですか。

花田　台風は大体七八九月が最盛期ですが、五月頃から始まります。風速二十米にもなると雨が小石をぶつけるように痛く、呼吸もできない位です。

揚野　機関室の中にいても、バケツで水をぶつかけるように浸水する。ポンプで排水しても追付かない位だから、ポンプが故障でもした日には……

花田　いつか奄美大島の南方で台風に逢つた時など、奄美大島へ逃げようとしたら、日本船に逢つたので、どうするかと聞くと、奄美大島に避難しかけたが追出された（笑）のだという。（註・当時まだ米軍占領中）仕方がないので鹿児島県の山川港へ向つたが、途中船のヘサキを吹き折られ、散々な目にあつて、六時間後やつと入港したこともあります。

揚野　アンテナがうなつたり、夕やけがひどかつたりすると気が気じやない。

はらみ子でも船長さんより大きいシャチ（えかまた）

難破船救う

加藤場長

加藤　台風の時難破船を救つて知事表彰を受けた話がありますよ。

山口　そいつをどうぞ

花田　一月の末でした。大阪を午後四時に出港して紀伊水道にかゝつたのは真夜中、十七八米の暴風で難航していますと、ウォッチ（見張り）の石原君が難破船らしいという。甲板に出ると真暗な中で讃美歌のような遠声が風雨の合間に聞えるが皆目見えない。そこでライトを照射すると僅かに船首だけ出した船に数人の男がいて、上衣に火をつけて振つているのです。

早速救助にかゝつたが、先方は一五〇屯位の船で、紀伊水道の早潮、しかも暴風ですからうつかり近ずくとこつちの船がやられる。

用心しい〳〵もやい綱をなげたが、すぐ切れてしまつた。そこで丈夫なロープにブイをつけて投げ、やつとのことで一人ずつ本船へたぐりよせたのです。総勢六人、真冬ですからガタ〳〵慄えているのに、私たちの古服を着せ食事をさせると皆手を合せて拝みました。この船は和歌山市の太田木材KKの持船で、木材を七千八百本も積んでいたのが多過ぎたのですね。

加藤　後日社長からの礼状に、自分の会社では球磨郡の木材を買付けたことがあるが、今度熊本の船に助けられたのも因縁でしょうと喜んで来ましたよ。

花田　お互いに助け合うのは海の仁義ですが、どうかすると知つていて逃げる船もありますからね。

山口　外国の港には寄られませんか。

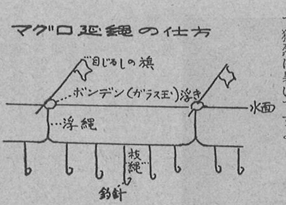
花田　駄目です。寄港するなら外務省の手を経て先方の承諾を得ねばなりませんから、一寸やそつとのことではないのです。

山口　現地の気候はどうですか

花田　日中で三十二三度。

山口　大したことはないですね。

花田　ところが北緯五度以南となると赤道に近いのですから、いわゆる無風帯で猛烈に暑いですよ。



120 尾が頭だけ

山口　さて現地の活動ぶりを一つ伺いたいのですが、延縄というのはどんな漁法ですか。

竹村　図をごらんになると分りますが二百ヒロ（約三〇〇米）位の幹縄に、サンマの釣をつけた枝縄を四十本位下げ、ボンデンという硝子のウキと、目じるしの旗竿をつけたものを一枚又は一鉢といいます。これを三〇〇鉢ぐらいつなぎ合せて水面におろすのです。船は全速力で走つていますが、全部をつけるのには三時間位かゝり、距離にして十八里から二十里位にもなります。そして最後におろしたところから引上げていくので、最初につけたのを引上げるまでには十五六時間もかゝるわけです。

竹村漁撈長

山口　釣針には全部かゝつていますか。

竹村　どうして〳〵。大体七百匹で船は一杯になりますから、皆かゝれば一遍でよいが千二百本の枝縄にキハダなら百分の一、メバチになると二百分の一位しかかゝつていません。ですから十回から二十回位延縄を入れます。

揚野　しかも中にはフカやシャチなどに食われて、頭ばかりしか残つていないのもあるしね。いつかなどは百二十匹も頭だけにされたことがある。（笑）

花田　何しろシャチは小さいので百貫大きいのは千貫もあるのですからね、それに性質がドウモウで、おまけにコスい。ハリにかゝらんように胴体ばかり食いやがる。（笑）

☆大シャチと闘う☆

花田　この前六百貫もあるシャチを捕まえた時は嬉しかつたな。しかし小さいのでもあの尖つた口で腹でも突かれたら命がけですからね。皆及び腰ですよ（笑）殊に六百貫もあると始末が悪い。何しろ長さが肥後丸の三分の一位あつて、後で腹から出したはらみ子でも私の背より高かつた（笑）（註船長は五尺二寸位）始め胴体をロープでしばつたが、体あたりであばれると肥後丸がグラ〳〵する（笑）しツぽをくくつてマストにブラ下げたら一時間ばかりでやつと死んだ。

竹村　シャチの口ばしで突かれると船腹をつき破ることがある。いつかなど、